

「筑豊炭田」のあらすじ

橋本英吉の長編歴史小説「筑豊炭田」は架空の主人公大渡幸助（一八五五年生まれ？）が十八歳の明治六年一八七三年頃から始まり、筑豊炭田での大きな出来事に次々に関わっていきます。

①排水ポンプの動力源に蒸気機関を利用

明治八年一八七五年に、現在の田川郡糸田町の炭鉱で片山逸太が蒸気機関を動力源とする排水ポンプの実験を行ったが失敗した。

坑内からの排水に苦しむ筑豊の炭鉱主たちが多数見学に訪れた。

明治十四年一八八一年に現在の飯塚市目尾の炭鉱で、杉山徳三郎が蒸気ポンプの実用化に成功した。

これらを間近で見た主人公は長崎で蒸気機関を学び技術者となった。

②大水害と鉄道開通

明治二十四年一八九一年の大水害と筑豊興業鉄道の若松〜直方間の開通当日の祝賀会の様子が描かれ、主

人公は折尾から直方まで乗車している。

③本洞坑と藤棚坑の坑内火災

明治三十年代に相次いで坑内火災が発生し主人公は麻生太吉を助けて活躍するが、結局三井炭山に売却することになった。

この小説には、筑豊の炭鉱主たちが実名で多数登場します。

片山逸太（一八三七〜一九一七）

肥後国出身、幕府の長崎製鉄所で働き、機械技術者として筑豊に。のち炭鉱主となったが六十歳で引退し門司で料亭を経営した。

杉山徳三郎（一八三九〜一九三〇）

長崎の出身、片山逸太と同じ経歴で筑豊に。主人公との関わりは深い。五十五歳で目尾炭鉱を売却して故郷に戻り、事業家として活動した。

帆足義方（一八三九〜一九二〇）

江戸の士族から政府軍士官に。西南戦争に従軍後退官し筑豊の炭鉱主になり、新入炭鉱など直方の炭鉱にも関わったが明治二十年代には筑豊を離れた。主人公と会話を交わす。

麻生太吉（一八五七〜一九三三）

飯塚の大庄屋から炭鉱主に。直方内ヶ磯の吉川ヤスと結婚。主人公と最も親しい。水害や坑内火災に苦闘

しながら克服し、今日の麻生グループを築く。

貝島太助（一八四五〜一九一六）

直方の貧家出身で幼時から坑内へ。曲折を経て筑豊御三家となる。

藤棚坑・本洞坑の経営を巡り麻生太吉と対立するが、劇的に手打ちする。多賀神社の階段下に貝島太助明治三十五年奉納の鳥居と麻生太吉翌年奉納の灯籠が今も隣接している。

この他に許斐鷹介・安川敬一郎・伊藤伝右衛門・堀三太郎などの著名な炭鉱主が実名で登場しますが、主人公とのつながりは強くありません。



炭鉱主達が激論を交わした旧筑豊石炭業組合直方会議所

筑豊文庫資料室に展示

本年7月にオープンした筑豊文庫資料室（図書館内）の上野英信蔵書の一冊として展示され、資料室内で閲覧できますが貸出しはできません。

直方の歴史と文化

文 榊 正 澄

文化財に関する問い合わせ：文化スポーツ推進課社会教育係（TEL 25-23326）



人の動き

■人口 56,404人（-202） ■世帯数 27,330世帯（+169）  
[うち外国人619人]  
男 26,667人（-39） すべて令和2年8月末現在  
女 29,737人（-163） （ ）は前年同月との比較

<発行>直方市  
〒822-8501 福岡県直方市殿町7番1号  
URL … <http://www.city.nogata.fukuoka.jp/>  
<発行日>毎月1日(月1回)  
<編集>秘書広報課秘書広報係  
TEL … (0949)25-2236 FAX … (0949)22-5107  
E-MAIL … [n-koho@city.nogata.fukuoka.jp](mailto:n-koho@city.nogata.fukuoka.jp)  
<印刷・制作>株式会社ワールドプリンティング



市ホームページ



インターネット情報提供サービス

SNSやwebサイトで様々な情報発信を行っています。ぜひ、ご覧ください。

直方市Instagram



さあ、あなたもフォロー!

アプリ「マチイロ」



市報をアプリで配信!

直方市公式LINE



直方市と友だちになろう!

情報メール「つながるおがた」



緊急情報、イベント情報など

直方市バーチャルミュージアム



直方の文化を隅々まで